

第2回 輪島市復興まちづくり計画検討委員会

議 事 録

日 時：令和6年7月12日（金）14時00分～16時30分
場 所：輪島消防署 2階大会議室
出席者：別紙名簿のとおり

■議事概要

1. 開会挨拶

（山本 利治 企画振興部長）

本日はお忙しいところ検討委員会に出席いただき感謝申し上げます。また、日頃より輪島市行政にご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。本来であれば、市長が挨拶を申し上げるべきであるが、別件の公務があるため、代わりに挨拶させていただきます。

本検討委員会は、5/9（木）に第1回を開催し、委員各位のご意見と今後のスケジュールについて確認した。6/15（土）、6/16（日）には、わじま未来トークを輪島・門前・町野の3地区で開催し、市長を含め市民約110名が参加し、今後の新しい輪島をどう作っていくかについて討議した。今後、地域の意見を伺う取組として、8月中旬から下旬にかけて住民懇談会を7エリアに分けて開催する予定である。また、8/10（土）、8/11（日）には、第2回わじま未来トークを前回同様3地区で開催する予定である。委員の皆様におかれましては、都合がつくようであれば、ぜひ参加いただきたい。

一方で、輪島朝市、輪島塗の再興、地域の賑わいを取り戻すため仮設商店街やイベントなど、各地区・各種団体においても復興に向けて積極的に取り組んでおり、本日は各団体より活動報告として取組内容の発表がある。これらの取組については、今後の復興まちづくり計画に反映していきたいと考えている。

本日は復興まちづくり計画の基本構想の中間報告をする予定であり、委員の皆様におかれましては、忌憚のないご意見をいただけますように、よろしくお願い致します。

2. 挨拶

（復興まちづくり特別アドバイザー 隈研吾氏 ビデオメッセージ）

本来ならば、輪島市で顔を合わせて議論に参加すべきであるが、名古屋の現場が佳境を迎えており、本日も参加ができず申し訳ない。

輪島市でアドバイザーに就任したとの報道後、多くの方より連絡をいただき、これまでにない反響があった。また、日本人だけでなく、海外の方からの連絡があり、輪島市への心配や今後の在り方についての声を聞いている。街の風景のすばらしさを含め、輪島市が世界的なブランドであることを再認識することができた。この世界に誇れる輪島市がどのように復興していくかは重要なテーマであると感じている。

皆様や市民と直に会って意見交換しながら、私の知見などを輪島市の復興に役立てていき

たい。

3. 会議

(1) 民間団体の活動状況報告

○輪島朝市の特徴を活かした施設整備構想検討会

※検討会メンバー 日吉氏より「輪島朝市の特徴を活かした施設整備構想検討会 検討状況」について説明

○輪島塗を考える会

※輪島塗若手ネットワーク 浦出氏より「輪島塗の若手職人が考える復興計画・実行について」について説明

○一般社団法人輪島青年会議所

※理事長 川口氏より「輪島青年会議所のビジョンと取り組み」について説明

○総持寺通り仮説商店街

※総持寺通り協同組合 宮下氏より「商店街再生」について説明

○町野町復興プロジェクト実行委員会

※実行委員長 山下氏より「町野復興プロジェクト実行委員会」について説明

久岡委員) 輪島塗は伝統産業であるが、漆器組合や上位団体との連携はどう考えているか。

浦出氏) 輪島塗若手ネットワークがこの活動に至った経緯として、これまで輪島塗について話し合う機会がなかったが、地震をきっかけとして、若手メンバーで何ができるか考えるようになった。これまで3回ほど、若手メンバーが中心となった座談会を実施してきたが、取組を実行するにあたり、これまでの輪島塗を創り上げてきた方々の意見を聞く必要があると考えており、次回からは漆器組合にも参加いただき、一緒に輪島塗の再興に向けて検討していきたいと考えている。

久岡委員) 輪島塗は、輪島市において大切な産業であるためしっかりと議論をしてほしい。

姥浦委員長) 復興まちづくり計画のスローガンとして「もとよりもっと 新・輪島」を掲げており、“もとよりもっと”が復興計画のキーワードとなっている。皆さんにとって、“もと”の輪島市はどういうもので、“もっと”をどのように捉えるかについて教えてほしい。残したい部分もあれば、変えたい部分もあるのではないか。

日吉氏) 輪島朝市の特徴を活かした施設整備構想検討会では当初、輪島朝市の良さは何かという議論からスタートした。各グループからは、自然・食・観光施設などが挙がってきて、食や伝統産業をはじめとした、伝統文化が重要性であると考えている。

浦出氏) 同様の議論は、若手ネットワークの中でも行った。まずは、輪島塗が衰退してきているという問題に対して、これを契機にしっかりと向き合い、前に戻すのではなく、新しい輪島塗の価値を付加できるように考えていきたい。また、今まで先代が成功した取組事例を活かしつつ、ダメな部分は原因を確認して、一つ一つ解決していきたい。若手ネットワークの中でも復興を大きなテーマに議論しているが、「震災前からみんなまで話し合える場があればよかった」などの話が挙がっている。輪島塗の職人同士、塗師屋、漆器組合が枠を超えたネットワークを形成し、輪島塗産業全体で輪島塗について話し合うことが今後必要である。次のステップに行けるような話をしていきたい。

川口氏) もともと輪島市は、他の市町よりも独自の産業が盛んな市であると思うが、それでも衰退してきていた。今回の地震をきっかけにして、各産業のシステムや組織構造に根本的な変化を加えることが必要である。輪島市の独自の産業は今後も残すべきだと思うが、その上で、持続可能性を見据えるのであれば、新たな大きな産業を誘致することも考える必要があるのではないかとの意見がある。

宮下氏) 「もとよりもっと 新・輪島」については地震前から考えていた。輪島市には輪島塗、海産物、お寺など誇れる資源がたくさんあり、震災後であっても変わっていない。その良さは、他地域の人に知られておらず、産業や農産物の衰退につながっているのだろう。まずは、輪島市の豊富な資源を見える化し、多くの人に認知してもらうことが輪島市の活性化につながるのではないか。各産業の職人や農家、漁師などの活動をよりオープンに伝えられる場を設け、PRすることが大切である。多くの人に輪島の良さを伝えていくことで、輪島市の歴史に触れ、住みたい人、関わりたい人が増えるのではないか。

山下委員) 輪島市に移住した身だからこそ分かるが、都会の人は畔に生えている草一つとっても魅力的に感じるなど、地元の人が当たり前で気付かない魅力が多々あり、それらを十分に活かしてきていなかったと思う。また、地域の活動としてイベントや祭りなどが開催されていたが、イベント内容は固定化されており、これまでの経験や固定概念より、新しくバージョンアップしたイベントの創出が難しかった。町プロ会議のメンバーは 30～50 歳代が中心であり、震災後、町プロが中心となってイベントを開催してきた。震災により様々な団体からの支援があったからこそ開催できた側面も大きいですが、新しいことにチャレンジすることができている。地元の方からは、「何で今までできなかったのか」といった意見があり、新しい発見となった。

“もとより、もっと”の部分は、今までの固定概念にとらわれず、若い人や年配の人が知恵を出し合い、様々なことにチャレンジできる地域を創っていくことであろう。

姥浦委員長) 様々な団体が様々な方法で積極的に活動していることが分かり、とても感動している。

山下委員) 建物の解体などで片付けのお手伝いをしていると、古い輪島塗の食器が出てくることが多い。年配の方などは、不要だと捨ててしまう方が多いが、生涯使えると言われていた輪島塗を廃棄することはもったいないと思い、使ってくれる人に譲渡する仕組みを考えている。その中で、町プロ会議メンバーは素人であり、持ち主から輪島塗だと譲渡してもらったものが本物かどうか判別できない。もし、輪島塗でなかった場合、将来的に輪島塗業界に迷惑をかける可能性があるため、輪島塗業界の方に判断してもらいながら、輪島市の大切な産業の保全にも取り組んでいきたい。

浦出氏) 震災前にも同様の依頼を受けており、既に多くの場所で取り組んでいる。他の地域でも同じ意見があり、ぜひ協力していきたい。

山崎委員) 総持寺通りの取組手法が今後の商店街再生に向け、とても重要に感じるが、何人ほどで活動しているのか。

宮下氏) 協同組合に加盟している店舗は34件であり、その中の59歳以下の店主10人程度で理事の方々にいろいろと提案をしながら活動している。

山崎委員) 個人的な意見ではあるが、他の商店街も組合員の高齢化など同様な状況だと思う。総持寺商店街のような取組をモデルにして、他の商店街に展開できれば良いと思った。町野地区の町プロ会議のモデルも、最終的には住民の方の生業の再興など未来につながるプロジェクトで素晴らしいと感じている。朝市組合や本町通商店街の復興についても、これらのモデルを参考に、ターゲットは観光客なのか、地域の方なのかを含め、若い人と年配の方の両者の意見や、地元の方の意見を聞き入れながら、議論を進めていくことで輪島市のいろいろな地域の活性化につながると思った。

宮下氏) 現在、総持寺と門前通りの住民、総持寺商店街で周辺エリアの今後のまちづくりについて話し合っている。ご存じの方もいるかと思うが、商店街の片側のほとんどの家屋が倒壊しており、今後ほとんどが解体され、更地になる予定である。住宅や店舗を無

くした人もおり、今後、公営住宅をどこに建設するかなどの議論もある。その中で、更地になる場所に道の駅を作る案が出ている。禅の里交流館がこれまで担ってきた輪島の文化や歴史を伝える役割が想定される。そのような施設を拠点として、観光客向けの店舗を営業していきたいと考える。当初は、店舗を無くした年配の方が入り、10年後 20 年後に仕事が難しくなってきたら、新しい人がオーナーとして入るなどの循環方法を検討しており、誰もが安心して仕事ができる環境を模索していきたい。まずは、年配の方の考えを聞きながら、10 年 20 年後の商店街の賑わいを議論していきたいと考える。

日吉氏) 朝市エリアの体制は複雑で、本町商店街が店舗を構えている前で朝市組合が朝市を開催しており、朝市組合に加盟する方が火災の被害を受けているわけではない。朝市エリアの検討を進めていく中で、本町商店街には店舗の他にも、そこに住む方がいるため、今後まちづくりを進めていく中で、住民の意見も踏まえていく必要がある。朝市検討会では、商業に焦点をあてて、朝市と商店街の復興に向けて議論しており、今後も面として朝市近辺エリア一体を考えていく方向である。一方で、住民の居住空間としての整備も必要であるため、最終的には市が中心となり、住民も含め合意形成を図りながら、朝市エリアのどのように再興していくかを検討してほしい。朝市検討会の考える案はあくまでも案であり、どこまで採用されるのか不安を抱えつつ、協議している。また、商店の立場からすると、なりわい再建支援補助金を活用して、復興を進めていく予定ではあるが、補助金は震災前の段階に戻すまでの補助しかない。復興に向け、震災前よりもより良くするには補助金を活用できないため、商業の復興に向け行政側でも検討してほしい。

山下委員) 町野地区では、楽しい町にしないと人が集まらない、住みつかないと考えている。楽しい町にするため、何事にもチャレンジできる町にしていきたいと考える。町野地区で行った独自アンケートでは若い人の働く場所がないという意見がみられ、働く場所の創出の観点から企業誘致も一つの方法かもしれない。一方で、自分で起業し、様々な事業を展開し、雇用を生み出すことも一つである。町野地区は、一次産業が盛んな地域であり、企業を誘致するにしても工場野菜や無農薬栽培工場など、農村に向けた企業誘致をするなど地域に即した雇用の創出を考える必要がある。また、町野地区は商店街組織がなく、仮設住宅の前で仮設商店街を再建するにしても、事業者が震災を機に事業を辞めた場合は、補助金を得られず、新しく起業する人への支援はない。行政の制度上、やむを得ないが、もう少し柔軟に補助金を活用できるような仕組みを考

えていただけると、地域住民同士や行政とともにアイデアを出しながら、住みやすく楽しい街を実現できると思う。

川口委員) 輪島市には商店街が多数ある中で、スポットライトが当たりやすいのは朝市通りであるが、他の商店街との連携なども考えていく必要がある。朝市検討会で、隣の観音町商店街や新町商店街などの再興についても検討しているのか。周辺の商業地域として復興を考えていく上で、観音町商店街の再興も検討する必要があると思う。

日吉氏) 朝市検討会の検討エリアは、あくまでも朝市通りを中心に考えている。ただ、最終的には、朝市周辺エリアに家族が来て楽しむといった視点は重要だと考えており、検討会参加者から同様の意見が出ている。観音町商店街の飲食店は、地元にとっても、観光客にとっても重要であると考えており、本町商店街と観音町商店街がお互いに範囲を広げ、一体となった活用を検討できればと思う。

姥浦委員長) わいち商店街などの他の商店街とも連携しながら、幅広く検討してほしい。

(2) 復興まちづくり計画の検討について

※輪島商工会議所 久岡委員より「輪島経済界の震災復興に向けて～経済産業復興ビジョンの策定について～」について説明

※事務局より「わじま未来トークの報告、区長会長へのヒアリングの報告、基本構想（中間報告）の報告」について説明

姥浦委員長) 事務局より3点について報告があったが、ご質問、ご意見があればお願いしたい。

藤井委員) 前半部分の各団体からの報告を踏まえて思ったこととして、各団体は限られた地域の中で、具体的にやりたいことがはっきりしている。一方で、輪島市全体に目を向けると、やるが多すぎて、本当に大丈夫かと心配である。本来ならば、市でももう少し方針を提示したうえで、各団体からの意見を聞く場とする必要があるのではないかと。別の内容ではあるが、基本構想の3ページ目「市民の皆様には様々な場面で様々な思いを語っていただきました」と過去形になっているが、これからも継続的に何うのであれば、現在進行形にすべきではないか。

事務局) 市が方向性を示していく必要があると考える一方で、計画の策定方針にあたっては、市民の声を聞いて進めることとしており、行政の方向性を前面に打ち出すのはあまり望ましくないと考える。まずは市民の声を取り入れることを大前提として進めたい。

復興まちづくり計画の基本項目は、事務局内でも様々な項目を想定して検討しているが、予め内容を示すのではなく、市民の声を聞いた上で内容を調整しながら復興まちづくり計画を策定していきたい。2点目の表現については、ご指摘の通りかと思い修正したい。

猿谷委員) 案の段階で優先度などは定まっていないかと思うが、道路の整備がないと車が走れないのと同様で、観光の観点でも、漁業・農業の一次産業の立て直しがないと、観光客に美味しい食を提供できないかと思う。生業の再興についても、朝市などの観光面に目が行きがちであるが、まずは、一次産業の立て直しが重要であり、一次産業の立て直しがなくまま、観光面の再興をしても意味がなく、その点に一番危機感を感じている。優先度についても十分に議論する必要があると考える。

事務局) 優先度は重要であると考え。今後、シンボリックな事業、重点的な事業をいくつか打ち出していくので、いま出された意見を反映していきたい。

川口委員) 前提の確認になるが、本委員会は復興まちづくり計画に対して、議決する権利があるのか。基本構想では具体的な取組イメージや何らかの事業計画を組み込まれているかと思うが、我々には意思決定権があるのか。

事務局) この委員会で検討する復興まちづくり計画は、委員の過半数の同意が得られた上で可決し、各取組を実行することになる。委員の一人一人の考え方が全て結論に結び付くかは分からないが、計画に反映される。

川口委員) 具体的な取組については、時間をかけて検討することになるかと思うが、優先度も重要になる。子どもの教育の課題などが最優先になるのではないか。それに加えて、その項目を実行するために予算規模も重要になるかと思うため、必要な予算感なども含め検討してほしい。

事務局) 先ほど申し上げた通り、重点的なプロジェクトを抜き出し、重要度・優先度を位置付けについては、委員の皆様との議論の上、決めていきたい。予算については、財政的に脆弱な自治体であるため、国の支援をいただきながら実現できるように要望していきたい。

森 委 員) わじま未来トークの門前地区に参加したが、参加者は少なめの印象であった。事務局としての手応えなどを教えてほしい。

事 務 局) 先ほど説明した通り、市街地 50 名、西部地区 39 名、東部地区 21 名となっており、正直なところ、各地区とも予想通りであった。第 2 回も実施予定のため、今後も周知を努めたい。

山下委員) 1 点目について、先程の質問の回答にも市民の声を計画に反映していくとのことであったが、その場合、委員会の開催時期が 2 ヶ月に 1 回程度が適切なのか。前回の説明では各専門部会と連携するとあったが、わじま未来トークの開催を本委員会で報告するだけではなく、専門部会・委員会の両方向から進め方等について様々な提案があつてこそ連携だと思ふ。その点も含め、委員会や専門部会の開催方法を見直してほしい。2 点目は、基本構想体系図(案)に、「1-2. 地域コミュニティの維持」との記載があるが、“維持”では、現状を維持することになり、スローガンの“もとよりもっと”を考えるのであれば、「地域コミュニティの再生」の方がよい。3 点目は、「2-2. 農林水産業・里山里海の再生」の項目があるにも関わらず、本委員会に農林水産関連の関係者がいない。本委員会に農林水産関係者が参加していない経緯はあるか。

事 務 局) 開催頻度について、2 か月に 1 回程度としながら、8 月に第 3 回を予定するなど、状況に合わせて適宜委員会を実施する予定である。その都度、委員長の意見を伺いながら、委員会の実施を検討したい。2 点目の指摘については、その通りであると思ふ。「コミュニティの維持」ではなく「コミュニティの再生」と修正したい。3 点目の農林水産関係者の参加については、今後、農林水産業の再生も重点施策の一つとして位置付ける必要があるため、関係機関に働きかけていきたい。

姥浦委員長) スローガンのサブタイトルとして「みんなでつくる復興まちづくり」と追加しているが、サブタイトルのポイントは「みんな」の部分である。本日の委員会での各団体からの発表の中でも官民連携・公民連携の取組、輪島市に住む若い人・年配の人との連携などの話があつたが、輪島市民や外部の人を含めて「みんな」で輪島を再考していくことが重要であると思ふ。これまでの活動は、各地区・各団体での独立した取組が多かつたと思ふが、今回の震災を契機に復興に向けて互いに連携し、みんなで作っていく事が重要であると思ふ。わじま未来トークでも、市長が最後に「行政がこれから頑張ります」と言った後に「みんな頑張っていきましょう」と言いなおさ

れていたのが印象的であり、サブタイトルとして「みんな」を入れたらよいのではないかと思い、提案した。文言等については、委員の皆様の意見をいただきながら、変更していければと思う。

※事務局より「今後のスケジュール」について説明

4. 閉会

■会議の様子



以上